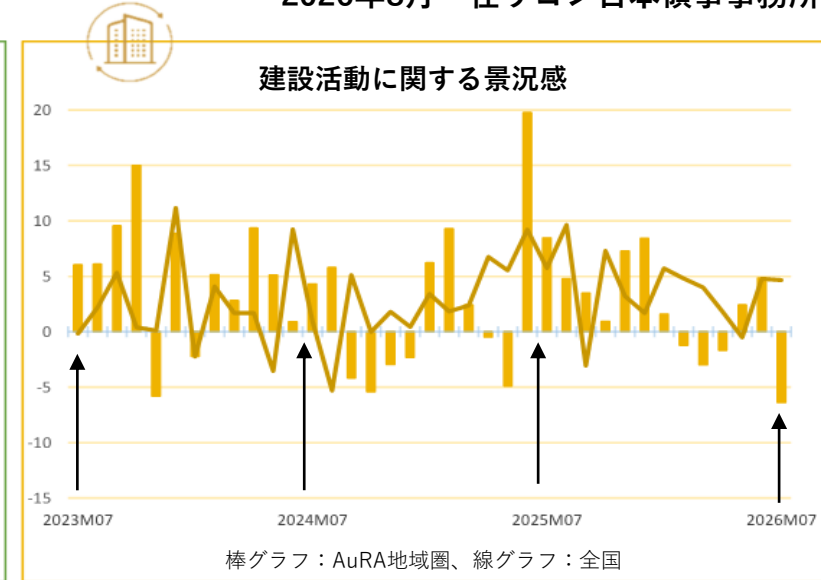
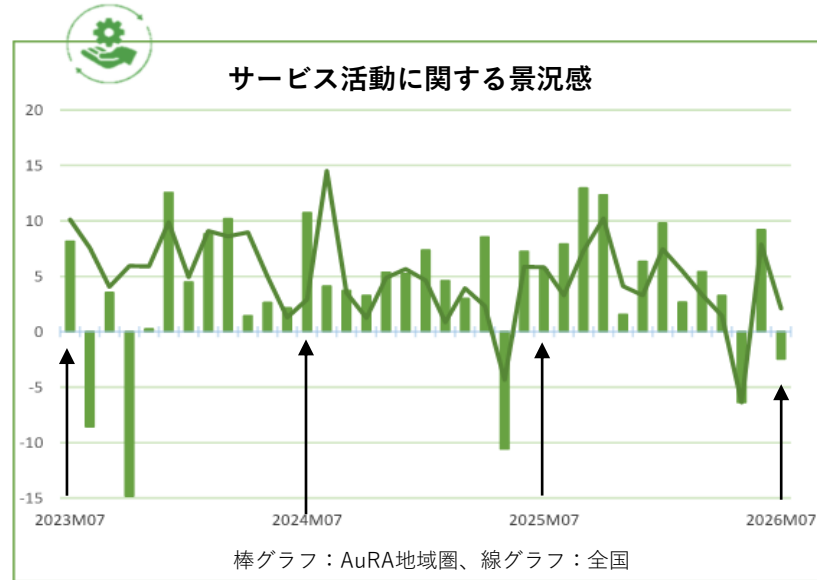
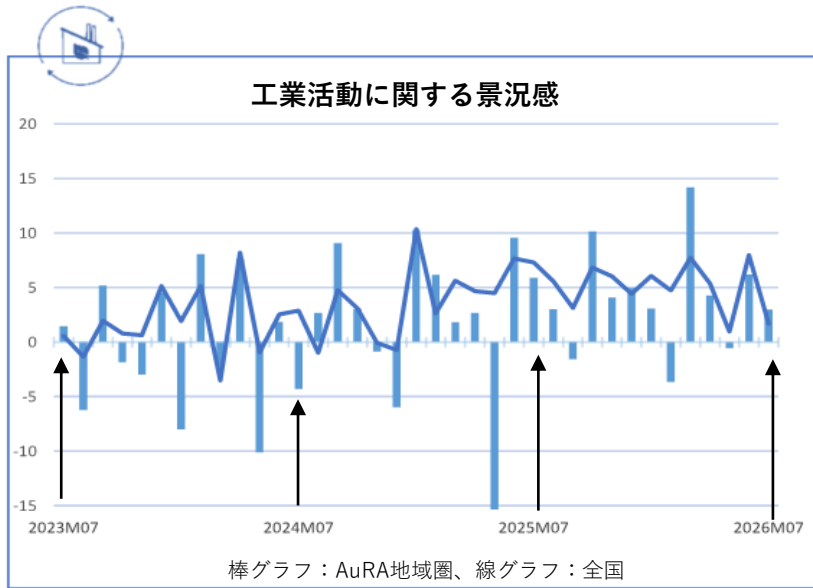


オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年7月）

2026年8月 在リヨン日本領事事務所



ポイント

- **工業部門**：7月の景況感は、AuRA地域圏でも全国レベルでも好調を維持したが、セクターによってその動向にはばらつきが見られた。生産能力稼働率は2023年7月以来の最高水準で安定。原材料価格の上昇は続いたものの、そのペースは前月よりも鈍化し、販売価格に転嫁することができた。雇用はほとんど変化なし。受注状況は予想どおりとみられ、8月の事業活動は小幅な伸びが見込まれている。
- **サービス部門**：道路輸送、技術設計・コンサルティング、宿泊・飲食、及び個人向けサービスにおける落ち込みの影響を受け、AuRA地域圏では景況感が悪化した一方、全国レベルでは引き続きプラスを維持。販売価格は、特に道路輸送部門において、再び引き上げられた。短期的には企業経営者は依然として慎重な姿勢を崩さず、8月の事業活動はわずかに縮小を見込んでいる。
- **建設部門**：AuRA地域圏では景況感が悪化した、全国レベルではプラスを維持。内装工事の受注は縮小し、基礎工事では低水準で横ばいとなった。内装工事の受注残は十分な水準を維持しているものの、基礎工事では依然として不十分とみられている。今後数週間について業界関係者は、例年より長期にわたる夏季休業や、受注残の減少を予想している。
- 資金繰りの状況は、工業部門では全体的に安定し、サービス部門では改善が見られる一方で、金属及び飲食セクターでは特に厳しい状況が指摘されている。

- ・ フランス銀行がAuRA地域圏の工業、サービス業、建設・公共事業の各セクター1,150の企業と事業所を対象に、景況感について調査を実施（2026年7月22日～8月5日）。
- ・ 景況感（le solde d'opinion）とは、企業経営者による肯定的意見と否定的意見の合計を、企業の従業員数で加重平均し、各部門の付加価値で調整したもので、企業経営者による7段階評価の回答を集計した指数であり、その値は-200から+200の範囲となる。季節調整済み及び稼働日調整済みデータを使用。（出所：Banque de France, [Tendances régionales : Auvergne-Rhône-Alpes](#)）

オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年7月） ：実績、翌月の予測、トレンド



工業活動に関する景況感

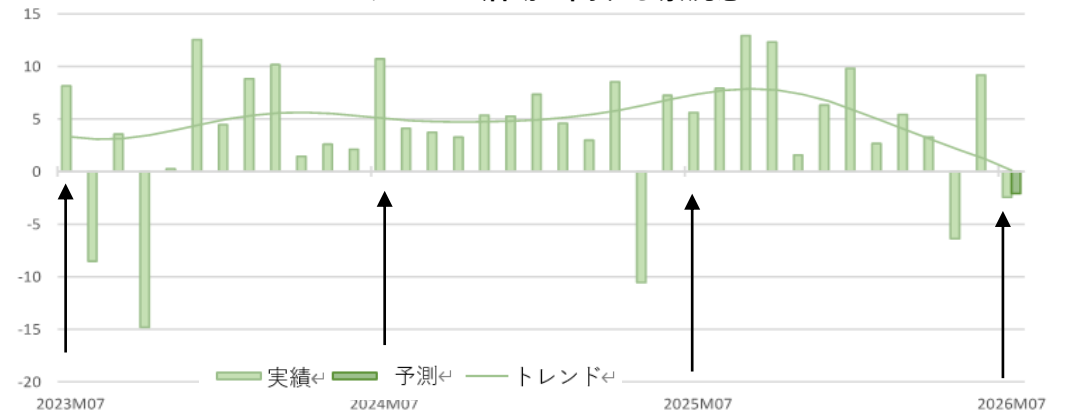


7月の工業部門の景況感は、AuRA地域圏において好調を維持したが、セクターによって大きなばらつきがみられた。情報・電子・光学製品、電気機器、化学工業、機械・設備の製造セクターは改善した一方、自動車、木材・紙・板紙、その他の製造業では生産活動が大幅に縮小し、これら以外のセクターではほとんど変化が見られなかった。完成品の在庫は減少。原材料価格は再び上昇し、その上昇分は販売価格に転嫁された。受注動向は引き続き好調であり、受注残高は概ね予想どおりと見られる。このため、短期的には事業活動が拡大するとの見通し。



サービス部門では7月の景況感は悪化した。しかし、状況はセクターごとに異なる。道路運送、技術設計・コンサルティング、宿泊・飲食、及び個人向けサービスの各セクターでは悪化した一方、IT、人材派遣、法務・会計セクターでは、引き続き好調を維持した。販売価格は再び引き上げられた。雇用は横ばい。企業経営者は依然として慎重な姿勢を崩さず、今後数週間の事業活動はわずかに縮小すると見込んでいる。

サービス活動に関する景況感



7月の建設部門の景況感は悪化した。内装工事では不振が見られ、基礎工事では6月に顕著な減速が見られた後も受注は低水準だった。需要の低迷を受け、基礎工事では見積価格の下落が続く、企業の利益率を圧迫した。一方、内装工事では、価格改定の幅が前の四半期に比べて小幅だった。雇用は全体的に安定。受注残高は基礎工事ではわずかに回復し、内装工事では引き続き堅調な水準を維持している。短期的には、8月に例年より長い休暇が予定されていることもあり、売上高は減少傾向が続くと見込まれる。

建設活動に関する景況感

